



## モジュール1ー2

## ● 表題・枚数・時間

- 臨床倫理のアプローチ倫理的分析法としての4原則、モジュール12枚、約25分

## ● モジュールの概要

このモジュールは、現在日本で臨床倫理を対話する際に(比較的共有されている)枠組みである臨床倫理の4原則を示し、倫理理論の背景や、その歴史的経緯、4原則によりジレンマ(価値等が相いれない状態)に気づいたのちの、多職種で協議するまでを対象とする。

私たちの臨床上の活動は全て倫理的な活動と言えるが、普段倫理的な基盤を意識することは少ないが、違和感を覚えたり、対立関係に立った場合に、4原則を知っていると、それがどのような理由(価値の対立・ジレンマ)なのかを分析することができる。

## ● 講師からのキーメッセージ

1. 倫理理論(功利主義、義務論)の背景を知る。
2. タスキギー事件、それへの反省の過程で出てきたベルモントレポートで示された3原則(のちに4原則となる)を、ヒポクラテスの誓いと比べて、理解する。
3. これら原則は、互いに相反(ジレンマ関係)することを知り、臨床で「違和感」を抱いた際の分析方法として有用であることを理解する。
4. しかし、このジレンマ関係を理解しただけでは、臨床上の問題状況への対処はできないので、これを具体的な事実を集めて協議する、4分割表と連携させて使うことを理解する。
5. なお、临床上必要な倫理ルールが4原則に尽きるわけではなく、本モジュールの趣旨は、典型的な臨床問題を分析するには、4原則が有用であるという意味であり、その他の倫理原則にも配慮が必要である。

## ● モジュールの目標

このモジュールを修了すると、受講者は:

1. 倫理理論と、臨床倫理の4原則との関係を説明できる。
2. 臨床倫理の4原則が出てきた背景と、4原則の意味を説明できる。
3. 4原則に終わるのではなく、価値の対立やジレンマに気づき、どのようにして多職種で議論するのかを説明できる。

## ● 事例を検討するにあたって

- 事例 4原則を使って、価値の対立・ジレンマ関係を分析してください。価値と言うと少し難しいと感じる場合は、自分(その職種)として大事と考えていることは何かという問いに置き換えてもいいでしょう。